

ユーラシアンホットライン

来年の「アムール川の古代絵画展—少数民族の聖地シカチアリャン」準備進む 大野 遼

来年四月以降、当面横浜、大阪、新潟などで開催が予定されているロシア連邦ハバロフスク地方シカチアリャン村のアムール川沿岸に存在する 150 点余りの岩絵を中心に、先住民族ナナイの文化や暮らしを紹介する上記展覧会の準備が進んでいます。これまで 3 回、東京、大阪で実行委員会を開催し、シカチアリャン村で収集した民族資料、過去 2 回、現地で採取された拓本の画像処理も終え、解説・図録パンフレット作りを進めています。

私は、10 年ばかり北方ユーラシア学会の運営事務局をお手伝いしながら、生きている諸民族の国家民族宗教を超えた「民族の共生」「自然との共生」を模索することが必要な時代になったと考え、理解親睦協力の活動を行うために NPO ユーラシアンクラブを設立（1993 年 2 月）し、今日に至りました。その中で、日本列島の対岸にある少数民族を視野に入れた活動は第一の課題となり、ささやかな資産を全て投入し、全力を挙げて取り組んできました。しかし経験と能力の不足によってさしたる成果も出せず今日に至っています。

今回の展覧会は 5、6 年前から構想し、開催を呼びかけてきましたが、幸い到大阪の国立民族学博物館の佐々木史郎教授から開催協力の申し出をいただき、とりあえず横浜ユーラシア文化館、新潟県立歴史博物館での開催の見込みとなりました。

今回の展覧会は、北方ユーラシア学会とユーラシアンクラブが協力して、日本橋高島屋文化基金の助成で実施した岩絵調査の際に採取した拓本（1993 年 9 月）と、ユーラシアンクラブの呼びかけに答えて頂いた、大阪のアンコールワット拓本保存会が採取した拓本（2008 年 10 月）の二つの資料を中心にしながら、昨年从今年にかけてシカチアリャン村の NPO 代表でユーラシアンクラブ会員のドンカンさんが収集した民族資料約 100 点などを展示。解説資料も掲示して、「昔からアムール河流域で暮らしている人」を意味するシカチアリャン村の「ナーナイ」を紹介し、日本列島を視野に入れた「環日本海交流」も紹介する予定です。

今のところ、かつて収集したロシア語文献に再度目を通し、新しい学界の研究動向も視野に入れながら、シカチアリャン村の歴史を整理している段階ですが、かなりダイナミックなアジア史の中にあるシカチアリャン村の姿が浮かんできており、シカチアリャンを中心とした極東史になりつつあります。20 年以上にわたって、私が全てを投入して全力で取り組んだ、理解親睦交流をめざした、村の経済的自立を図る取り組みは成果を挙げることが出来ませんでした。シカチアリャン村の古代絵画・岩絵を中心とした、この展覧会を通して多くの日本人のシカチアリャン村を知る処となり、シカチアリャン村の観光振興に役立つことにつながり、岩絵が世界文化遺産として認定されることも目指しています。皆様のご理解、ご支援を切にお願いいたします。

＜バイオマス産業社会ネットワーク（BIN）第 141 回研究会のご案内＞

日 時：2014 年 11 月 18 日（火）18:30～20:30（開場 18:00）

テーマ：フィリピンの日系バイオ燃料事業における課題と企業責任

講演者：波多江 秀枝（FoE Japan 委託研究員）

会 場：地球環境パートナーシッププラザ

（東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学 1F）

地下鉄表参道駅より徒歩 5 分・JR 他渋谷駅より徒歩 10 分

（地図）<http://www.geoc.jp/access>

参加費：BIN 会員／FoE サポーター無料、一般 1,000 円

主 催：NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク（BIN）

国際環境 NGO FoE Japan

※日本企業が出資するフィリピン北部のバイオエタノール事業は、未利用地の利用、バイオ燃料生産、雇用創出などを目的として行われましたが、その開発の現場では、大規模なサトウキビ・プランテーションにおける土地収奪や労働者問題、また、工場など関連施設からの公害など、様々な問題が地元住民から訴えられてきました。

関連サイト：<http://www.foejapan.org/aid/land/isabela/>

※事業者により一部対応が行われた点もありましたが、残念ながら、地元住民の生活は現在も脅かされ続けています。今回は、この日系企業が進めるフィリピンでのバイオ燃料開発の実態をドキュメン

タリー映像「空に溶ける大地」（「地方の時代」映像祭・2013 年入選作品）により紹介するとともに、現地コミュニティと問題の解決に取り組んでいる NGO スタッフから、現況を報告します。

※多数の参加者の皆様とともに、バイオ燃料開発の課題、および、日本企業の責任などについて、活発な議論ができれば幸いです。

※参加をご希望される方は、下記よりお申し込みください。

<http://www.npobin.net/apply/>

※サーバーの不調等で送信できない場合は、お手数ですがお名前、お名前ふりがな、ご所属、電話番号、E-mail アドレスをご記入いただき、E-mail：mail@npobinn.net までお送りいただくか、fax もしくはお電話にてお申し込みください。

◆◆New!◆◆

バイオマス産業社会ネットワーク第 139 回研究会バイオマス産業社会ネットワーク第 139 回研究会「日本における持続可能な森林経営と木質バイオマス利用」の資料をアップしました。詳しくは下記をご参照ください。<http://www.npobin.net/research/>

◆2013 年の内外のバイオマスの動向をまとめた、バイオマス白書 2014 サイト版を、下記に掲載しています。

<http://www.npobin.net/hakusho/2012/> また、バイオマス白書 2014 小冊子版（ダイジェスト版）の販売も行っています。A4 版フルカ

【マレーシア通信】第23号 デング熱体験談

板坂 優一

● 板坂 優一：1983年生まれ。北海道出身。2009年の冬からバックパックとギターを背負って中国からシリアまでアジア横断の旅へ。そこで見た『イスラムの世界』に魅せられ、現在マレーシアのペナンにてアジアの文化、特にイスラム圏について宗教、社会などの勉強をしている。

7月始め、しばらく天気が良かったいか、ヘイズがペナンの空を覆う。ヘイズはインドネシアでのプランテーション拡大等の為に森を燃やして出てくる煙。ここ最近、天気が良ければ必ずヘイズ立ち込める。こうなると気管支系の調が悪くなったり、体調を崩しやすくなったり、また、空気中に熱がこもりやすくなり、普段より熱くなる。そしてなぜか蚊もくなる。寝苦しい夜に耳元でブーンとれるとたまったものではない。やっつまで寝る気がしない。

そのような環境で微熱や軽い倦怠感襲われ、体調が悪い日々が続いてると、突然 40 度の高熱とひどい頭痛と寒気

襲われた。風邪を引くといつも 40° 近くまで上がり、次の日には一気に下るパターンだが、今回は一晩寝ても下がらない。もう一日、熱さましを飲みながら様子を見たが、一向に下がる気配がない。その次の日の夕方、さすがに耐え切れなくなり、近くの病院へ行くと、すぐにデング熱と診断され、即入院する羽目になった。

デング熱は最近日本でも発症例が出たみたいだが、基本的には東南アジア等の熱帯地方に生息するネッタイシマカによって媒介される病気で、症状は数日間の潜伏期間中の軽い微熱等が出た後、ひどい高熱、悪寒、頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹、眼球奥の痛み等で苦しむ。また、デング熱に掛かると血小板の数が激減し、出血すると血が止まりづらなくなる。それ故にデング出血熱とも言われる。ワクチンや特効薬等の有効的な治療法はなく、ひたすら生理食塩水の点滴やお茶、スポーツドリンク、水等でとにかく水分を取り、体の中を洗い流すしか無い。どうやら私はぱったりデング熱にかかっていた様で、その後は冷房の効きすぎる病室でホスピタリティのない看護婦達に処置を施



されながら一週間の闘病生活を送った。

ちなみにその蚊に刺されれば必ず発症するわけではない。心身共に健康であれば感染する事はなく、実際マレーシア人の中でもデング熱にかかったことがない人は多い。また、蚊の脅威といえばマラリアもあるが、マレーシアでは感染することはなようだ。デング熱に対する特効薬では無いが、名な伝統的治療薬としてパパイアの葉をすり潰して作る青汁がある。これを飲むと血小板を内で増幅させる効果があるようで、デングにかかったらとにかくこれを飲むと良いら



い。その苦さと青臭さはハンパではない。私の家の隣のばあちゃんがわざわざ作って持ってきてくれたが、何かでごまかさなければ吐きそうになる程、すごい味で、とにかく強制的に『健康』にさせられそうな味だった。

マレーシアでは蚊も一つの脅威で有るため、蚊避けグッズは豊富だ。日本のような蚊取り線香はもちろん、電気タイプの蚊よけ、肌に塗る蚊よけ、蚊よけパッチが売られている。東南アジアらしい所は、殆どの肌に塗るタイプには蚊を寄せ付けないレモングラスの成分が使われていて、自然な感じがするが、意外と肌への刺激が強い。

デング熱に掛かった事はある意味貴重な体験だった。日本ではほぼ、掛かることは無いだろう。しかしデング熱に掛かった時の苦しみと対処の仕方を体験した他、東南アジアの医療の質、特に『ホスピタル』なのにホスピタリティが無いのには驚いた。

(もちろん病院に依ると思うが。)最後に、一番驚いたのは医療費だった。やはりもう二度と掛かりたくないのが正直な意見だ。

メディア・ユーラシア情報 ネットリサーチ

東京外国語大学「日本語で読む中東メディア」が注目 <http://www.tufs.ac.jp/common/prmeis/fs/> です。

【北アジア】

○安倍・プーチン両氏会談、対話継続で一致

2014 年 10 月 18 日

【ミラノ 17 日 ロイター】 - 安倍晋三首相とロシアのプーチン大統領が17日、10分間会談し、対話を続ける方針で一

致した。日本の当局者らが明らかにした。

外務省報道官によると、両首脳は対話を続け、アジア太平洋経済協力会議（APEC）で二国間、世界問題を協議する意思を確認したという。

両首脳はアジア欧州会議（ASEM）首脳会議に合わせて、ウクライナ危機についても意見交換した。

日本政府の高官によると、安倍首相はプーチン大統領に対し、和平プロセスの前進に向け、前向きな役割を果たすよう求めた。

プーチン大統領は、和平プロセスは前進しているが、ウクライナとの間で一部意見に隔たりがあると述べた。

<http://jp.reuters.com/article/worldNews/idJPKCN0161Q420141017>

○ガス問題、最終合意に至らず 露ウクライナ首脳会談

2014.10.18

【ミラノ＝宮下日出男】ロシアのプーチン大統領とウクライナのポロシェンコ大統領は 17 日、訪問先のイタリア北部ミラノでこの日 3 回目の会談を 2 人だけで行った。欧州首脳が列席した、先立つ 2 回の会談では露側が停止中のウクライナへの天然ガス供給問題について前進がみられたが、最終合意には至らなかった。

ポロシェンコ氏は会談終了後、「実質的な結果に至らなかった」と表明。プーチン氏は冬季に限り供給を再開する条件に一致したとし、「欧州のパートナーがウクライナを支援することを期待する」と、欧州側にガス代金の支払いなどの資金を保証するよう求めた。

ガス問題ではすでに、両国の交渉を仲介する欧州連合（EU）が、冬季の暫定措置として露側が半年分を供給し、ウクライナが年末までに計 31 億ドル（約 3300 億円）を支払うことを提案。ポロシェンコ氏は次回交渉の 21 日までに解決したい考えを示した。

<http://www.sankei.com/world/news/141018/wor1410180012-n1.html>

○露、中国向けガスパイプライン着工 欧米制裁受け、中国ルートに活路 2014.9.2

【モスクワ＝遠藤良介】ロシア産の天然ガスを中国へ直接供給する初のパイプライン「シベリアの力」の建設が、東シベリア・サハ共和国のヤクーツク郊外で始まった。ウクライナ問題をめぐって欧米が対露制裁の動きを強める中、ロシアが制裁に加わ

[西アジア]

○「イスラム国」、クルド人行政拠点ほぼ掌握＝NGO

2014 年 10 月 11 日

【ベイルート 10 日 ロイター】 - 過激派「イスラム国」は 10 日、トルコ国境に近いシリア北部の町コバニで、地元クルド政府庁舎のある「安全区域」をほぼ完全に掌握した。英国の非政府組織（NGO）「シリア人権監視団」が現地の様子を伝えた。

同組織によると、イスラム国はコバニの 4 割以上を占領したという。

また、現地のクルド人部隊当局者は、治安部隊が使用する建

物がない中国との経済関係拡大を急いでいることを象徴する事業といえる。

露国営天然ガス企業のカスピパイプラインと中国石油天然ガス集団（CNPC）は 5 月、年 380 億立方メートルの天然ガスを 2019 年から 30 年間にわたって輸出入する契約に調印した。パイプラインはこれに基づき、新規開発される東シベリア・チャンダ天然ガス田などと中国東北部を結ぶルートで敷設される。

プーチン露大統領は 1 日の起工式で「事業はロシアと中国の高い水準の協力によって可能になった」と両国の蜜月ぶりを強調。シベリア有数のバンコール石油ガス田の開発に中国企業の参画を認める考えも示した。カスピパイプラインと CNPC は、西シベリアの天然ガスをアルタイ地方経由で輸出する別のパイプライン敷設についても交渉中だ。

ロシア産天然ガスをめぐっては、主要輸出先である欧州市場でのシェアが約 30% に低下、アジア太平洋諸国への輸出多角化が近年の課題となっていた。さらにウクライナ問題では欧州連合（EU）がロシア経済の屋台骨である資源分野を対象とした制裁を拡大する恐れがあり、それが 10 年以上も続いた中国向けガス輸出交渉の妥結につながった。

今回着工したパイプラインの最終的な総工費や収益性には不透明な部分が多く、制裁に直面するロシアが中国との契約を急いだ側面は強い。一部専門家からは、過度の対中傾斜がロシアの立場を弱体化させかねないとの指摘も出ている。

<http://www.sankei.com/world/news/140902/wor1409020074-n1.html>

○ロシア格付けを「Baa2」に引き下げ＝ムーディーズ

【17 日 ロイター】 - 格付け会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスは 17 日、ロシアのソブリン債務格付けを「Baa1」から「Baa2」に引き下げた。長引くウクライナ問題が、ロシアの中期的成長見通しを圧迫していると指摘した。格付け見直しは「ネガティブ」に据え置いた。

ムーディーズは声明で、ウクライナでの軍事衝突と対ロシア制裁拡大によって、ロシアの投資環境が一段と悪化する公算が大きいとの見解を示した。

<http://jp.reuters.com/article/worldNews/idJPKCN0162G420141017>

物の脇で、イスラム国との戦闘が起きていると話した。

http://jp.reuters.com/article/jp_mideast/idJPKCN0H21J020141010

○コラム：米国が踏み出した「終わりなき戦争」 Jack Shafer
2014 年 09 月 26 日

【24 日 ロイター】 - 米統合参謀本部のメイビル作戦部長は 23 日、シリアでの空爆を「イスラム国を破滅させるための持続的で確かな作戦」の始まりだと述べた。作戦はどれぐらい続くのかとの問いに、メイビル氏は「数年単位と考えている」と答えた。これはまさに、終わりのない戦争の始まりだ。

空爆はシリア領内で行われているが、アサド大統領が率いる殺人政権を狙ったものではない。攻撃対象はあくまで、シリアとイラクにわたる地域に「カリフ国家（預言者ムハンマドの後継者が指導する国家）」樹立を宣言したイスラム国だ。彼らはシリア政府の敵でもある。

しかし、共通の敵を攻撃するに際し、米国はシリア政府と手を組もうとはしなかった。オバマ大統領は 2011 年にアサド政権の退陣を要求。昨年には、アサド大統領が化学兵器を使用して「一線を踏み越えた」とし、シリア空爆に踏み切る寸前でいった。

米国は今回の作戦で有志連合を組むに当たり、特定の国を選び好みしているわけではない。空爆に参加したカタールは過去、シリア国内でアルカイダ系組織に資金提供していた。読者も知っての通り、アルカイダは米国にとって仇敵だ。実際に米軍は今週、シリアでアルカイダ系武装組織「コラサン・グループ」にも空爆を加えた。コラサン・グループは、米国や欧州で攻撃を企てていたとされる。

ただ、イスラム国がアルカイダの目の敵でもあるという事実が、われわれが踏み出した終わりのなき戦争をさらに複雑にしている。イスラム国は今年に入り、シリアの別のアルカイダ系組織「ヌスラ戦線」と関係が悪くなり、アルカイダから分かれた。そしてヌスラ戦線もまた、アサド政権と戦っている。つまり別の見方をすれば、米国の敵の敵だからと言って、自動的に米国の味方にはならないということだ。

もちろん、シリア国内にも米国に協調的な組織は存在する。反政府武装組織「自由シリア軍」の一部である「ハズム運動」などだ。ただハズム運動はアサド政権との戦いで、米国の敵であるヌスラ戦線と共闘している。ロサンゼルス・タイムズ紙の報道によると、ハズム運動は今回のシリア空爆について、「外部からの干渉」であり、「革命への攻撃」だと非難する声明を出した。

つまり、米国の友人であり、同時に米国の敵と共闘しているハズム運動は、米国がイスラム国掃討のためシリアで空爆を行った事実を異議を唱えているのだ。イスラム国はハズム運動にとって敵であるのだ。

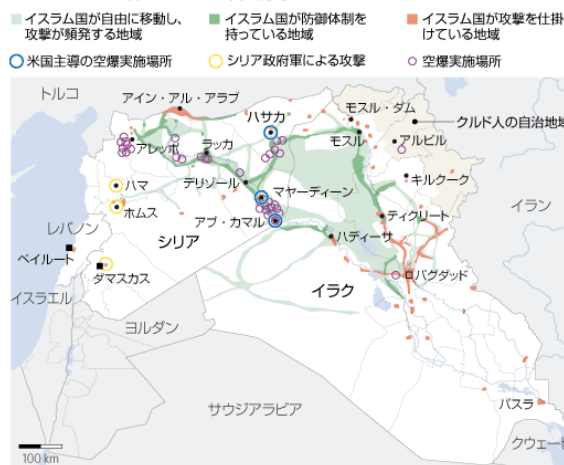
その一方で、シーア派武装組織「ヒズボラ」は、レバノンとシリアの国境付近でヌスラ戦線に無人機で攻撃を行っており、イスラエル軍はシリアの戦闘機を撃墜している。

読者の頭が混乱するのも無理はない。しかし事態を理解するのに十分な時間はある。メイビル作戦部長が言うように、この戦争は何年も続くだろうからだ。

これは、敵と味方が絶えず入れ替わる一寸先の見えない戦争だ。米国の攻撃でイスラム国が弱体化すれば、一

シリア人権監視団は 25 日、米軍が主導するシリア領内での空爆により、「イスラム国」の戦闘員複数数が死亡したと明らかにした。

シリアとイラクで広がるイスラム国の勢力



部で言われているようにアサド政権は息を吹き返すだろうか。それとも、ヌスラ戦線とイスラム国が、少なくとも当面は接近することになるのだろうか。あるいは、米国が資金援助する「穏健派」が力をつけ、イスラム国ではなくアサド政権に銃の照準を定めるようになるのだろうか。

当事者にも結果が想像できない戦争は、出口のない戦争だ。シリアやイラクの各組織は、どれも簡単に負けるようには見えないが、どこか 1 つが突出して強いようにも見えない。米国の介入がなければ、現在の対立は一段と激しくなるだけだろう。ただ米国の介入について言えば、国防総省でさえ出口を予測しようとしていない。

米国民にとってこの戦争は、少なくとも今のところは、背景で騒音が鳴り続けているかのようだ。戦死者数の集計や飛行禁止空域の指定、政権交代や選挙実施など、軍事的勝利を判断する通常の基準は、今回の戦争には当てはまらない。われわれの通常考えに照らし合わせるには、国境も敵も軍事目的もあまりに流動的だ。

また、どうなれば平和だと判断するか基準も見えない。和平交渉もシャトル外交もなく、事態を平定して恒久平和をつくり出す支配的な勢力が出てくる兆しもない。

シリアでの空爆に踏み切ったことで、この戦争はオバマ大統領の戦争となり、次の大統領の戦争、そしてわれわれの戦争になった。われわれは、恒久平和のための終わらない戦争に足を踏み入れたのだ。

<http://jp.reuters.com/article/jpUSPolitics/idJPKCN0HL02V20140926>

【中央アジア】

○アフガン当局、タリバン強硬派幹部を逮捕
2014.10.16

【ニューデリー＝岩田智雄】アフガニスタンの情報機関、国

家保安局 (NDS) は 16 日、イスラム原理主義勢力タリバンの強硬派グループ、ハッカニ・ネットワークの幹部、アニス・ハッカニ容疑者を東部ホスト州で 14 日に逮捕したと発表した。

アニス容疑者はハッカニ派指導者シラジュディン・ハッカニ氏の兄弟で、アラブ諸国での資金集めやネット上での政治宣伝を担当していたという。

<http://www.sankei.com/world/news/141016/wor1410160049-n1.html>

○襲撃、自爆テロで 17 人死亡 アフガン、国際部隊撤退直前に治安深刻化

2014.10.13

アフガニスタン各地で 12～13 日、駐留する国際治安支援部隊（ISAF）やアフガン治安部隊を標的にしたイスラム原理主義勢力タリバンなどによる襲撃や自爆テロが相次ぎ、地元当局によると、市民や兵士、警官ら少なくとも 17 人が死亡した。

アフガンでは、ISAF が今年末までに戦闘任務を終了し、大部分の部隊が撤退を完了する予定。先月末に就任したアシュラフ・ガニ大統領はタリバンに対話と呼び掛けたが、攻撃は続いており、治安が悪化している。

北部サリプル州の山間部で 12 日、タリバンが治安部隊の車列を襲撃し、州当局によると兵士や警察官 14 人が死亡した。13 日には首都カブールで ISAF の車両を狙った自爆テロがあり、内務省によると市民 1 人が死亡。東部ナンガルハル州でも国軍を狙ったとみられる自爆テロがあり、国防省によると市民 2 人が死亡した。（共同）

<http://www.sankei.com/world/news/141013/wor1410130062-n1.html>

○アフガニスタンと米国が安全保障協定に調印 来年以降の米軍の駐留が可能に

2014.10.1

【ニューデリー＝岩田智雄】アフガニスタンと米国は 30 日、カブールのアフガン大統領府で、来年以降の米軍の駐留を可能にする安全保障協定に調印した。協定をめぐってはカルザイ前大統領が調印を拒否し続けていたため、治安を維持するうえで

大きな懸案となっていたが、ガニ新大統領は就任の翌日に実行した。来年以降も国際部隊の協力を仰ぐ姿勢を鮮明にした。

「われわれ、そして世界の利益は引き続き脅威にさらされており、今回の協定が必要だった」

調印式でガニ氏は協定の意義を強調した。

アフガンでは、国連安保理決議に基づく北大西洋条約機構（NATO）軍主導の国際治安支援部隊（ISAF）の任期が今年末で終了し、来年以降は新たな枠組みが必要となる。米国など NATO 加盟主要国は戦闘行為を終了し、アフガン治安部隊の支援のため、規模を縮小させた部隊をアフガンに駐留させる方針を明らかにしていた。

安全保障協定は駐留米兵の地位などを定めており、NATO もこの日、米国とは別に、アフガン政府との間で協定に調印した。駐留規模は現在の ISAF の約 4 万 1 千人から 1 万数千人に減り、戦闘行為はアフガン軍が担う。

ただ、アフガン治安部隊は、人材が圧倒的に不足している。国際部隊から段階的に治安維持権限を移譲されてきたが、イスラム原理主義勢力タリバンの影響力が強い東部や南部でタリバンに勢力拡大を許している。最近も首都近郊のガズニ州で、警官や兵士、市民約 100 人がタリバンに殺害され、十数人はアフガン政府の協力者として首をはねられる事件が起きた。

空軍力の拡充も急がれる。外交筋によれば、治安部隊には旧ソ連製ヘリを操縦できる兵士がいるが、高齢化が進んでおり、人材育成が急務だ。航空管制もアフガン側に移譲されるが、熟練したアフガン人管制官は限られているという。

来年以降、タリバンはさらに攻勢を強めることが予想され、ガニ新大統領とアブドラ行政長官による「挙国一致政権」は、苦しい船出となりそうだ。

<http://www.sankei.com/world/news/141001/wor1410010009-n1.html>

【南アジア】

○国産巡航ミサイル実験成功 インド

2014.10.17

インドは 17 日、初の国産巡航ミサイル「ニルバイ」の発射実験を東部オディシャ州で行い、成功した。PTI 通信によると、射程は 700 キロ以上。

モディ首相は「国防力（強化）への大きな弾みとなる」との声明を出し、開発の関係者に祝意を示した。ニルバイは昨年 3 月に実験が行われたが、失敗していた。（共同）

<http://www.sankei.com/world/news/141017/wor1410170055-n1.html>

○【環球異見】インド首相訪米、「米国の操り人形にならない」と中国紙

2014.10.13

インドのモディ首相が 9 月 30 日、ワシントンでオバマ米大統領と会談し、名指しを避けながらも海洋進出を強める中国に懸念を示す共同声明を発表した。中国紙は隣国インドの米国接

近に警戒感を示し、インド紙は対米関係を重要視するモディ首相の外交政策を肯定的に捉えた。一方、米紙は経済を中心に両国の抱える課題は多く、「中国の台頭」に対処するためにも、さらなる関係の強化が欠かせないと主張した。

（中略）

□インディアン・エクスプレス（インド）

■過去と異なる米印関係の前触れ

モディ首相は就任後の約 4 カ月で日米中の首脳らと相次ぎ会談し、日米とは連携の強化、領土問題を抱える中国には強い姿勢で臨むなど、必ずしもインド伝統の「全方位外交」には縛られない方針をのぞかせている。2 日付のヒンドゥスタン・タイムズ紙は、米印首脳が共同声明で南シナ海の領有権問題に言及し、「中国関連の文言を入れることを避けなかった」と評価した。

インドのシンクタンク、オブザーバー研究所の C・ラジャ・モハン研究員も 8 日付のインディアン・エクスプレス紙のコラ

ムで「南シナ海問題が米印の共同声明に盛り込まれたのは初めてだ」と強調した。

モハン研究員は共同声明で、米国が提唱する「インド太平洋経済回廊」の構築に言及したことにも注目する。「太平洋国家」を自任するオバマ政権には、南アジアや東南アジアとの連携を強め、中国が独自に主導する「海上シルクロード」構想を牽制する狙いがあるが、モハン研究員は「中国のインド洋での構想を警戒しているとみられるインドにとり、自国の海洋シルクロードを建設する第一歩となろう」と分析した。

[東南アジア]

○スー・チー氏政権樹立を誤報、記者に懲役 2 年 ミャンマー

2014.10.16

ミャンマーの最大都市ヤンゴンの裁判所は 16 日、野党党首アウン・サン・スー・チー氏らが暫定政権を樹立したと報じた地元の新興週刊紙の記者ら 5 人に対し、懲役 2 年の判決を言い渡した。誤報により社会不安を引き起こした罪という。

この週刊紙は 7 月に記事を掲載し、当局は記者や経営者らを拘束していた。7 月には国軍の兵器工場について報じた別の週刊紙の記者らにも懲役 10 年が言い渡されている。地元メディアは、旧軍事政権時代から残る古い法律が報道の自由を侵害していると反発している。(共同)

<http://www.sankei.com/world/news/141016/wor1410160059-n1.html>

○ミャンマー、受刑者 3 千人に恩赦

2014.10.7

【シンガポール＝吉村英輝】ミャンマー政府は 7 日、テイン・セイン大統領が「平和と安定」などのため、収監中の受刑者 3073 人に恩赦を与えた、と発表した。来月の東アジアサミット(EAS)開催などを控え、米国などに民主化の進展をアピールする狙いがあるとみられる。

恩赦の対象者には外国人 58 人が含まれるとしたが、詳細は明らかにしていない。人権団体はロイター通信に、軍政下に起きた 2004 年の権力闘争の末に収監された元軍情報局幹部数人が含まれていると主張している。

テイン・セイン氏は 11 年の就任後、欧米諸国の要求に応え政治犯の釈放を進め、同政権は 13 年末に「約束通り全政治犯を釈放した」と表明した。だが、人権団体はまだ多くの政治犯が収監されているとしており、今回の恩赦にそれら政治犯が含まれているかは不明だ。

<http://www.sankei.com/world/news/141007/wor1410070047-n1.html>

[東アジア]

○中台の支配強化を批判 南沙諸島めぐりベトナム

2014.10.23

ベトナム外務省のファム・トゥー・ハン副報道官は 23 日、南シナ海のスプラトリー(中国名・南沙)諸島で中国や台湾が実効支配を強化する動きを加速していることに対し「ベトナムの許可を得ない行動は違法かつ無効だ」と批判した。

良好に映る米国とモディ首相の関係にも紆余(うよ)曲折がある。インド西部グジャラート州首相だった 2002 年にイスラム教徒虐殺を黙認したとして、米国は最近までモディ首相への査証発給を拒否してきた。インディアン・エクスプレス紙は 2 日付の社説で、2 日間に及んだオバマ政権の厚遇は、「人権問題の懸念を脇に置き、モディ氏個人を擁護する以上の意味を持つ非常に温かい歓迎の意思」と高く評価した。(以下略)

<http://www.sankei.com/world/news/141013/wor1410130025-n1.html>

[.html](#)

○スー・チー氏出馬に逆風 ミャンマー憲法維持の方向

2014.10.22

ミャンマーの憲法改正について審議していた上下両院合同委員会は 22 日、大統領資格に関する条項を「現行のまま維持する」とした報告書をまとめた。この条項は最大野党党首アウン・サン・スー・チー氏の大統領就任を事実上禁じている。報告書をたたき台に両院であらためて議論するが、大統領を目指す同氏にとって厳しい情勢となった。合同委は、憲法の条項ごとに改正の必要性などを検討。スー・チー氏率いる国民民主連盟(NLD)は、大統領資格に関する条項の撤廃を求めたが、大胆な改憲を望まない軍系の与党、連邦団結発展党(USDP)に押し切られた。

軍事政権時代の 2008 年に制定された憲法は、家族が外国籍を持つ者の大統領就任を禁ずる。死別した夫が英国人で、子供も英国籍を持つスー・チー氏は不適格とされる。(共同)

<http://www.sankei.com/world/news/141022/wor1410220059-n1.html>

○ミャンマーが補選取りやめ 選管「時間と資金の無駄」

2014.9.8

ミャンマー選挙管理委員会は 7 日、年末に実施するとしていた国会など 35 議席の補欠選挙を取りやめると発表した。補選は来年中に予定されている総選挙の前哨戦として注目され、アウン・サン・スー・チー党首が率いる国民民主連盟(NLD)の躍進が予想されていた。

選管のティン・エー委員長は、総選挙が近く、「補選は時間と資金の無駄で、政治的意味もない」と説明した。(シンガポール 吉村英輝)

<http://www.sankei.com/world/news/140908/wor1409080031-n1.html>

中国はスプラトリー諸島のファイアクロス(同・永暑)礁で埋め立てを進め、礁の面積を大きく拡大させている。台湾は唯一実効支配しているイトゥアバ(同・太平)島で港湾整備を進めるなどしている。

副報道官はベトナムのスプラトリー諸島への主権は争う余地がないとした上で「現状を変更しようとする一方的行動には断

固反対する」と強調した。

南沙諸島をめぐるベトナム、中国、台湾、フィリピン、マレーシア、ブルネイの 6 カ国・地域が領有権を争っている。

(共同)

<http://www.sankei.com/world/news/141023/wor1410230033-n1.html>

○中華思想に基づく習近平の「上から目線」外交

日中首脳会談実現の可能性は？

2014 年 10 月 23 日 (Thu) 石 平 (中国問題・日中問題評論家)

・・・(前略)

習近平の周辺外交に「中華思想」の世界観

そしてこの「親・誠・恵・容の外交理念」のニュアンスをさらに吟味してみると、そこには、相手に対する「上から目線」の高姿勢が読み取ることができる。

たとえば「親しむ・親切にする」という意味の「親」は、中国語の感覚において、立場が上の人が下の人に「親切にしてやる」という意味合いが濃厚である。前述の中国の伝統文化から「親・誠・恵・容」の「源流」を探究した邢麗菊副教授の論文もまさに、中国古典にある「親民=民を親しむ」という言葉から「親」の意味合いを解釈しているが、ここでいう「親民」とは、上に立つ皇帝や官僚が下の万民を「親しむ」という、まさに上から目線の言葉である。

「親・誠・恵・容」の「誠」はさておいて、「恵」もやはり上から目線の意味合いを含んでいると言えるであろう。中国は世界第 2 位の経済大国として周辺国に「経済の恵」を与えるということだから、優位に立っているのは中国であることは言うまでもない。

そして 4 文字目の「容=寛容」となると、どう考えても、上から目線で周辺国を見下ろすような言い方でしかないのである。中国語では日本語と同様に、たとえば一般的な人間関係においても、「A さんが B さんに寛容である」と言った場合、そこに暗に含まれているニュアンスはすなわち、「B さんの方に落ち度がある」、あるいは「A さんに対して B さんは負い目がある」ということであろう。B さんには落ち度があって負い目があるからこそ、それを「許してあげた」A さんは「寛容である」と評価される。

要するに、「容=寛容」という言葉を自らの「周辺外交理念」の一つにした習近平主席からすれば、諸周辺国との関係において、彼自身と中国はまさに「許してあげる」という上の立場に立っている認識だということだろう。

習主席と中国メディアは、中国と異なった諸周辺国の社会制度や考え方に対して「尊重する」という意味合いで「容」を解釈している。しかしそれならば、国際社会で通用していたかつて中国もよく使っていた「相互尊重」というコンセプトを使えば良い。「容=寛容」となると、その意味合いは自ずと違ってくるのである。

このように、習近平国家主席が自ら打ち出したこの「親・誠・恵・容」の「外交理念」は、極めて独善的・傲慢的であって、まさに上から目線で諸周辺国を見下ろすようなものであること

が明らかだが、それはどう考えても、独立国家同士が対等な立場で外交交渉を行うという現代の国際社会の常識と感覚から大きく外れていると言わざるを得ない。

中国国内のメディアは、去年の 10 月にこの「周辺外交理念」を打ち出して以来、習近平主席はまさにこの「理念」に基づいて一連の諸周辺国訪問をこなして精力的な周辺外交を展開してきていると伝えているが、習主席自身が訪問した数多くの国の中で、習主席の「親・誠・恵・容外交理念」に同調したり、賛意を表したりするような国は現れていないように見える。

問題は、習主席が一体どうして、現代の国際社会と相容れないような上から目線の「外交理念」を打ち出したのかである。このような時代錯誤の「外交理念」たるものは、前述の邢麗菊副教授の論文でも論じているように、中国の伝統思想としての「中華思想」と大いに関係があるのではないと思われる。

「中華思想」とは何か。それはまさに、古来より中国が周辺国との関係を考える場合の基本的な枠組みである。この枠組みの中心にはまず「中華」がある。「天子」と呼ばれる中国皇帝の支配下では、「中華」はこの文化的・道徳的優位性において世界の頂点に立ち、文字通り、世界の中心なのである。

そして中華の周辺では、いわゆる「東夷・西戎・南蛮・北狄」と呼ばれるような「未開の民」があちこちに生息していて、彼らは中華文化からの影響を十分に受けていないが故に、未だに文明化されてない「化外の民」とされている。

そうすると、皇帝を頂点とする中華の「未開の民」に対する接し方は最初から決まっている。要するに中国の皇帝はまず「徳」というものをもって彼らに接して、中華の道徳倫理と礼儀規範をもって彼らを「感化」しなければならない、ということだ。そして彼らが「感化」されて徐々に中華の道徳や文化を受容してそれに同化していけば、これらの「化外の民」は最後には「文明開化」して中華世界の一員となっていく。その結果、「中華」は中国の皇帝を中心にして常に同心円的に拡大していくものだと考えられるのである。

その際、「徳」をもって「化外の民」を「感化」して彼らを中華世界へと導くことは、逆に言えば中国皇帝の偉大さの証明でもあり、感化される「化民の民」が多ければ多いほど、中国の皇帝が「真の天命」を受けた偉大なる皇帝として評価されるのである。

つまり、中華世界の周辺に「化外の民」の存在を設定しておくこと、そしてそれらの「化外の民」を「感化」ということが、中華世界自体における皇帝の権威の強化にも繋がるため、今までの歴史においては、偉大なる皇帝たることを目指そうとする中国の権力者たちは競って「化外の民」に対して自らの「徳」を示し、彼らの「感化」に努めてきたわけである。

この原稿を書いている 10 月 22 日現在で、北京での APEC 開催は約 20 日後に控えているが、習政権はすでに会議の成功に向けて全力を挙げて動き出している。

たとえば 10 月 13 日に中国国内メディアの「網易財經」が伝えたところによると、APEC 会議期間中の北京周辺の大気汚染を軽減するために、中国政府は 11 月 1 日から 10 日間、北京周辺

の河北省の一部の鉄鋼企業の操業停止を決めたという。あるいは 10 月 18 日付の北京青年報が報じたところでは、会議期間中に、通常の警察・武装警察が治安の確保に総動員される以外に、100 万人もの北京一般市民が治安維持のためのパトロールに動員されるという。何としても APEC を成功させたいという習政権の意気込みが強く感じられる。

どうしてそれほどまでに APEC 会議を成功させたいのか。当然、習近平主席の強い思いがあるだろう。今度の APEC 会議は、習主席が中国の国家元首として仕切ることになるが、彼にとっては国家主席になってから仕切る最大の国際会議であるから、どんなことがあってもそれを成功させなければならないのである。

そして前述の「中華思想外交」の文脈からすれば、中国の主要周辺国の首脳たちが北京に一堂に会するこの国際会議は当然、習主席が「東夷・西戎・南蛮・北狄」の国々を相手に自らの「親・誠・恵・容」を誇示する絶好のチャンスとなる。彼にとってその時の北京はまさに、自分が「有徳の中華皇帝」として周辺国を「感化」して心服させた、という歴史的な場面を見せつけるための夢の大舞台となるのであろう。そしてそれはすなわち、彼が標榜する「親・誠・恵・容外交理念」の集大成となる一大イベントでもある。

日中首脳会談を必要としている習近平

したがって、どんな対価を払っても APEC 会議を成功させたいというのが習主席の偽らない気持ちであろうが、その中で、会議の参加者として日本からやってくる安倍晋三首相と会うかどうか、習主席にとって大きな問題となる。

習近平主席自身が掲げている「親・誠・恵・容外交理念」からすれば、北京にやってきた安倍首相を無視しきさい会わないのはやはり難しいところであろう。というのも、「親・誠・恵・容」は習主席の周辺外交の普遍的理念であるならば、それこそ中国の重要な近隣国である日本に対しても本来なら、「親・誠・恵・容」をもって接しなければならないはずである。逆に言えば、もし日本というアジアの大国はいつまでたっても、習主席の「親・誠・恵・容」の理念に「感化」されずにして「化外の民」のままであれば、習主席の中華思想的「周辺外交」が完結

したことはない。その場合、習主席の「徳」が十分に行き渡っているとはとても言えないだろう。

つまり、11 月に北京にやってくる安倍首相という「東夷」の国の「頑迷」な指導者が、まったく「感化」されていないような様子で、習主席に「拝謁」もしないようなこととなれば、習主席の「親・誠・恵・容外交理念」の集大成の場となる APEC 会議は不完全なものとなってしまい、習主席の肝いりの周辺外交は完結できないままとなってしまふ。したがって習主席にとっても、日本の安倍首相が恭しく自分に「拝謁」してくるような場面がどうしても必要となってくるが、この「拝謁」の場面の実現はすなわち、日中首脳会談の実現であるのは言うまでもない。

要するに習主席自身、APEC 会議における安倍首相との会談を必要とし、それを実現させたいのである。だからこそその地ならしのために、今年 7 月には安倍首相に近い福田康夫元首相との極秘会談に応じた。9 月には、同じ太子党で自分の幼馴染みの李小林中国人民対外友好協会会長を「特使」として安倍首相の身辺に派遣したわけである。

もちろん習主席としては、安倍首相と会う条件としてはやはり、安倍晋三という人間が主席の「徳」に「感化」された印として、尖閣問題や歴史問題で何らかの目に見える譲歩をしてくれることが重要であろう。もし安倍首相が何らかの譲歩をした上で、さらに恭しい態度で拝謁してくるようなこととなれば、習近平国家主席にとっては万々歳の結果となる。しかしもし、「頑迷」な安倍首相が会談の実現と引き換えに譲歩することを最後まで拒否していれば、APEC 会議開催の直前までに、「安倍と会うべきかどうか」で悩み続けるのは習主席の方であろう。しかしそれでも彼はやはり、会談の実現に傾く可能性が大である。「有徳な中華皇帝」となるのはやはり大変なことなのだ。

後は、首脳会談実現のために領土問題などで譲歩するかどうかは日本側の裁量となるのだが、筆者の私自身、安倍首相は習近平主席と会うだけのために日本の主権と領土保全にかかわる問題で譲歩するような愚を犯すことはないと思いたいところである。<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/4354?page=3>

◎ アジアンレポート拡充のためボランティアスタッフを募集します。お問い合わせください。

◎ ニュースレターへの感想をお願いします。

◎ レター掲載原稿を募集します。

発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 発行人：江藤セデカ
住所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-11-5 TEL：03-5376-9343
支部愛川サライ 〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314-1
TEL：046-285-4895 FAX：046-265-0167 E-MAIL：paf02266@nifty.ne.jp
郵便振替：00190-7-87777 ユーラシアンクラブ お振込の場合：ゆうちょ銀行〇一九店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ 会費、ご寄付はこちらへ。会費は正会員年間 1 口 3,000 円、学生会員 1,000 円、賛同会員 2,000 円。一口以上のご協力をお願い申し上げます。

<http://eurasianclub.org/>

2014 1101 Non Profit Organization Eurasian Club

編集後記：この二カ月余り、展覧会の図録解説パンフレットで、シカチアリヤンをどのように紹介しようかと作業が続いている。人は誰も自分の居場所で世界を見ようとする。私は今、シカチアリヤンと日本（愛川町）の二眼レフでアジアがどう見えるかに取り組んでいる。30 年に及ぶ、300 人の小さな村との交流の歴史はもはや私の後半生そのものになった。その結果、環日本海交流史というべき世界が見えてきた。国家民族宗教を超えた、地球規模の環境変化を背景にした人類の移動、接触混血、文化史があった。まだ完成度は 3,4 割あるいはそれ以下といった感じだが、もう少し努力してみたい。来年は今のところ大阪、横浜、新潟の三か所で開催の予定だ（お）